

平成30年度「津波防災の日」スペシャルイベント  
『最新科学×津波×地域防災』

# 川崎市の津波防災

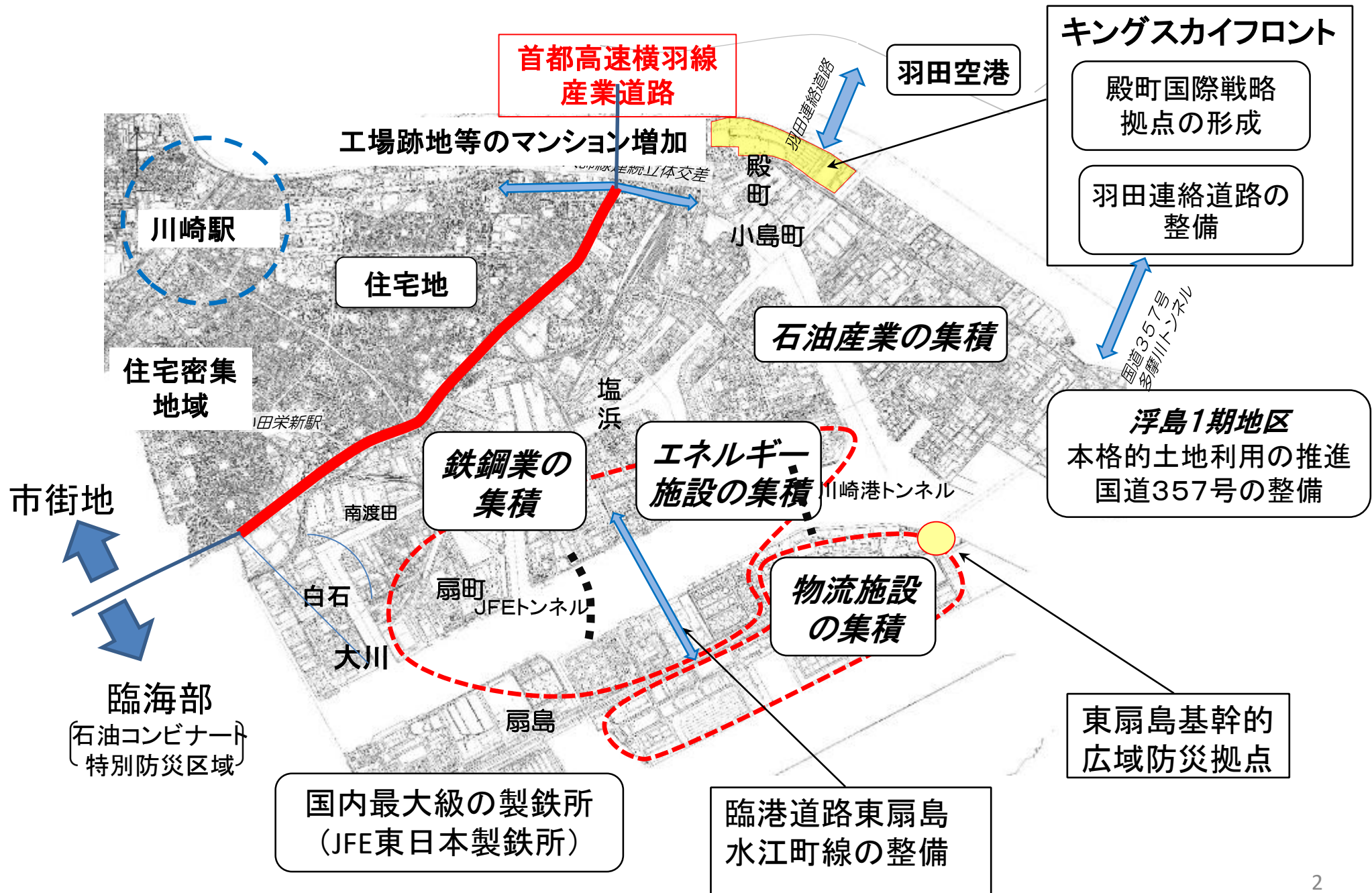
～企業・地域での最新科学の活用に向けて～



川崎市総務企画局危機管理監 高橋 実

○川崎区:人口約23万人、面積:40km<sup>2</sup>

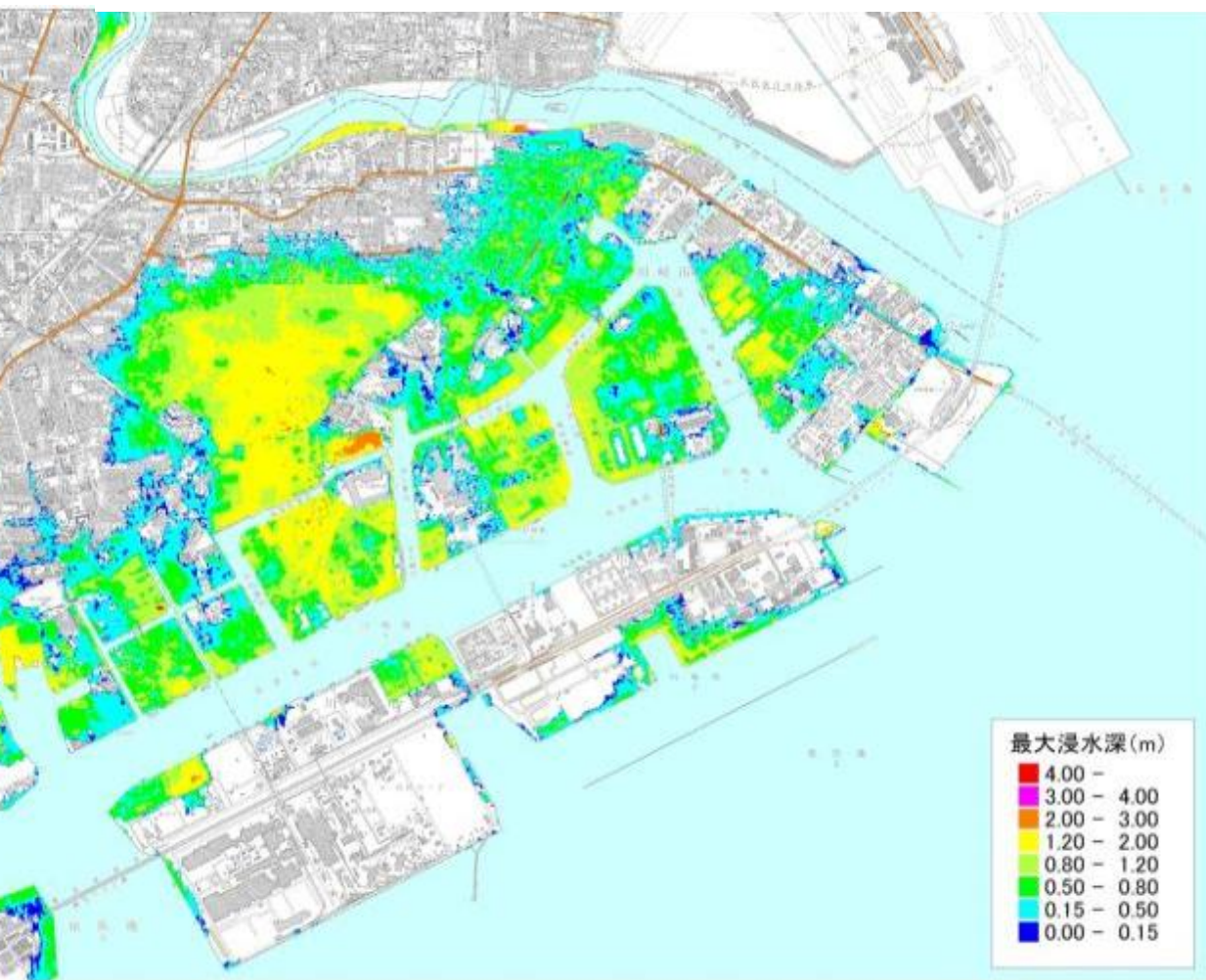
○川崎臨海部:事業所数:約2,300 従業者数:59,000人





# 川崎市地震被害想定調査(津波)

慶長型地震 (神奈川県公表の津波浸水予測図の中で、市の浸水域が最大クラス)



地震規模	マグニチュード8.5 (震度4程度)
川崎港で予測される最大津波高	約3.71m
川崎市内の浸水深	浅野町の一部 2~3m その他 2m以下
最大津波高の到達予想時間	約96分
川崎市内の浸水面積	約18.3km <sup>2</sup> (川崎区の45%)
要避難対象者数	約15万人 (内陸部約13万人)

## 【被害想定】

建物被害 半壊:10,025棟、浸水:4,617棟、人的被害 **死者:5,820人**(避難しない場合)

# 川崎市の防災計画

川崎市国土強靱化地域計画  
(平成28年3月策定)

川崎市地域防災計画  
(平成30年4月修正)

川崎市地震防災戦略(平成28年3月改定)

減災目標 : 慶長型地震の津波による死者数ゼロ

川崎市津波避難計画(平成25年4月策定)

県の調査結果をもとに、慶長型地震による津波を対象に、津波避難の考え方を定めたもの

川崎市臨海部防災対策計画(平成29年11月改定)

臨海部における総合的な防災対策の推進を図るため、災害の予防対策及び応急活動等必要な事項を定めた臨海部に特化した防災計画

主な見直し

- 1 避難計画の具体化
- 2 県石油コンビナート等川崎地区現地防災本部の招集事業所の見直し

京浜臨海地区石油コンビナート等代表特定事業所の3社を記載

# 川崎市が実施している津波対策

## 津波対策の基本方針

- 住民の避難等のソフト対策と海岸保全施設の整備等のハード対策を組み合わせた総合的な取組により、**津波被害による「死者数ゼロ」**を目標に対策を推進

### ソフト対策

- 津波避難施設の指定
- 津波ハザードマップの作成・配布
- 津波避難訓練(住民向け)
- 臨海部広域防災訓練(事業所向け)
- 海拔・津波浸水深表示板の設置
- 津波情報看板・避難所標識の設置
- ICTを活用した津波被害軽減研究

### ハード対策

- 海岸保全施設(防潮扉)の改良

【現状】



【改良後】



- 防災用浮き棧橋の整備
- 臨港道路東扇島水江町線の整備
- 耐震岸壁の整備、橋梁の耐震化 等

# 本市が実施している津波対策(ソフト対策)

## ■津波避難施設

津波警報等が発表された場合の一時的な避難場所

→102施設(約25万人収容) ※要避難者数約15万人



## ■津波ハザードマップ

発行:25年3月発行、改定:27年3月・29年3月)

配布:川崎区内各戸(作成・改定時)、転入者、行政機関等



## ■津波避難訓練(住民向け)

## ■臨海部広域防災訓練(事業所向け)

津波避難訓練、帰宅困難者対策訓練、情報受伝達訓練等を実施

## ■九都県市合同防災訓練

日本でも最大規模の訓練:本年9月1日(土)東扇島にて開催



## ■海拔・津波浸水深表示板の設置

## ■津波情報看板・避難所標識の設置

## ■ICTを活用した津波被害軽減研究





# 本市が実施している津波対策(ハード対策)

■ 海岸保全施設(防潮扉)の改良



■ 防災用浮き棧橋の整備

■ 臨港道路東扇島水江町線の整備

■ 耐震岸壁の整備、橋梁の耐震化



【千鳥町7号岸壁、東扇島9号岸壁】

■ 川崎港トンネルの耐震対策



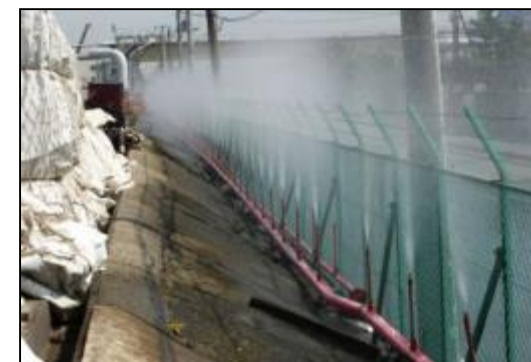
■ 防災行政無線の増設



# 事業所が実施している津波対策

## ■ハード対策

- ・屋外タンクの耐震化の促進(平成29年3月末現在)
  - ※屋外タンクの耐震改修率500kl以上:100%
  - ※浮き屋根式タンク:100%
- ・スロッシング対策:防油堤等の整備、モニター24時間監視
- ・液状化対策:護岸改修・地盤改良
- ・電源設備のかさ上げ、施設や建物の耐震化



## ■ソフト対策

- ・自衛防災組織や共同防災組織と連携した各種訓練の実施
- ・川崎臨海部防災協議会等の関係機関が参加する会議体による防災対策の検討





# 平成30年度における 津波被害軽減に向けた主な取組

- ◆川崎臨海部におけるICTを活用した津波被害軽減研究
- ◆川崎臨海部の島部における津波防災対策の推進
- ◆津波避難訓練の実施、津波避難施設の拡充

# 川崎臨海部の島部における 津波防災対策の推進



# 扇町地区

- 多数の企業が進出しており、京浜工業地帯の中核を担う
- 現在は特定事業所をはじめ、物流施設や発電所が立地
- 人口61名、従業員3,504名、182ha
- JR鶴見線沿線には住宅あり



# 扇町地区の防災の取組

## <扇町地区防災協議会の概要>

- 島内の事業所と町内会にて構成  
(昭和44年発足・構成数約20)
- 緊急連絡網の整備
- 防災訓練の実施
  - ・津波避難を主体とした訓練
  - ・島内企業の防災担当や町内会長が参加



# 扇町地区の防災の取組

## ＜扇町地区防災協議会の活動＞

住民と事業所の連携による地域防災力の向上

5月14日	打合せ
7月19日	地区防災協議会 説明
8月1日	地区防災協議会 会員事業所 津波対策資料提出依頼
8月2日	打合せ
9月13日	打合せ
9月20日	地区防災協議会 アンケート依頼
9月26日	扇町町内会 説明
10月1日	津波防災の日スペシャルイベント 参加依頼
10月22日	地区防災協議会 津波避難訓練
10月31日	地区防災協議会 説明
11月以降	これまでの取組を基に、津波防災対策の検討

# 扇町地区の防災の取組

## <扇町地区防災協議会の今後の展開>

～平成31年3月までに～

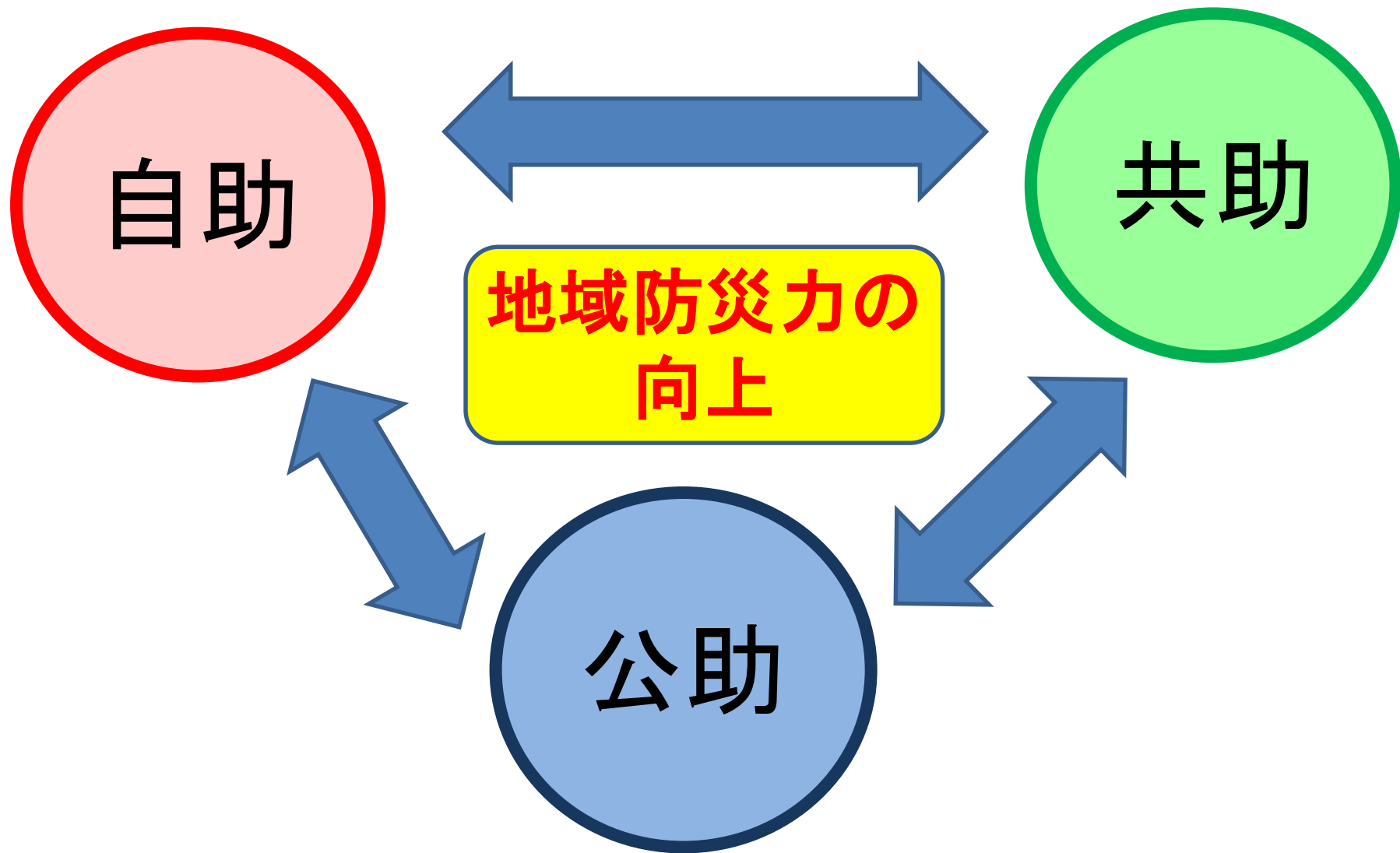
- 「津波防災対策チェックリスト」の作成
- 「扇町地区津波防災対策ビジョン」の策定



**地区の安全が価値を生み出す取組**

**川崎臨海部全体の防災対策の強化**

# 川崎市の今後の津波対策



**3者が連携し、適切な避難行動を目指す**



今後ともよろしく申し上げます